

野尋禾の
ついのべ
そこの十三
(2010/09)



title

野尋禾のついのべ

その十 =
(2010 / 09)

まえがき

”野尋禾のついのべ その十三 (2010/09)”です。

2010年9月に発表したついのべをまとめました。

永遠に続くかと思われた今年の夏も、9月下旬になって、やっと終わりました。
幼いころを思えば、夏という季節は短かった。

北東北に住んでいたので、夏休みがお盆すぎに終わっていたせいでもある。

小学校の頃、始業式の次の日くらいに職員室に行くと、テレビで甲子園の中継をしていたもんです。

気候も、ちゃんと涼しくなった。

中学生の頃、10月の衣替えまでワイシャツでいるのは寒かったくらい。

あの日々は、もう虚構の物語だったような気がしてなりません。

しかし、あの頃、21世紀のことは、あきらかに虚構の物語でしかなかった。

世紀をまたいで、不確かなものへの視線が交錯している。

……などと、のんびり感慨に耽ってられるのも、残暑を脱出したおかげ。

ほんとうに、今年の夏は残酷な季節だったことだなあ（詠嘆）。

あなたの暇を潰す柔らかいハンマー、または曲がるペンチ、それとも……

本コンテンツに収録された作品はフィクションです。

実在する人物、団体名などは便宜上、用いたものです。

実在する人物、団体になんら影響の及ぶものではありません。

ご了承ください。

収録作品はすべて、twitter で発表されたものですが、修正を加えたものもあります。

本ファイルに収録された作品の著作権は、野尋禾／nohironogi／佐々木秀博に帰属します。

2010/10/04

HP : http://www.geocities.jp/nohiro_nogi/

mail : nohironogi@gmail.com

Twitter : @nohironogi

#twnovel

うちの子のことで、ちょっと。

はい。

息子です。

長男で、あ、第一子です。

何を言っても生返事で。

ええ。

何を考えてるんだか。

やりたいことが見つからないっていうんですかねえ。

自分探しでもなんでも、行動してほしいんですが。

無理に働けとは言ってません。

はい。

まだ乳幼児なので。

2010/09/01 (Wed)00:10:23

#twnovel

いまわのきわの父の言葉が、今でもはっきりと耳に甦るんです——

これより三年のあいだ、我が死のこと、かたく秘しておくこと。

父の言葉は絶対でしたし、私としても、そのほうがいいこともあるかも、と思わなかったわけではありません。

決して、不正に年金を受給し続けるためでは……

2010/09/01 (Wed)13:45:31

#twnovel

路上生活者におちぶれて数年——

見知らぬ人に声をかけられた。

老朽家屋につれてゆかれ、そこで一緒に暮らすように言われた。

三食に小遣いまでついた。

近所のひとは、私を見ると挨拶してくれた。

お元気ですねえ、田中のおじいちゃん。

私はそのひとを知らない。

ただ微笑を返すだけだ。

2010/09/02 (Thu)09:19:25

#twnovel

一卵性双生児が生まれた。

父親は彼らを見分けるために、一人に無線式の電極を埋め込んだ。

スイッチを押して痛がるのが、その子。

やがて月日は流れ、双子は成長した。

別の方法でみわける必要が出てきた。

なぜなら、電極を埋め込んだ子は我慢づよくなり、他の子は演技を学んだからだ。

2010/09/02 (Thu)23:21:46

#twnovel

震災で焼け出され、甲府へ移った若夫婦。

東京では豆腐屋だった。

同じ商売をしようと、けんめいに励んだが、うまくいかない。

水が違うので、にがりに工夫が必要なのだ。

みかねた地元の同業者が助言しようとするが、組合長がやめさせる。

「よしねえ。こいつは、政治とかねの問題だぜ」

2010/09/03 (Fri)08:52:57

#twnovel

夢占いと弟子が、政治家に招かれた。

「鏡を見たら、首に木目があった。そんな夢なんだが……」

「吉兆ですな。漢字を並べてごらんなさいまし」

夢占いと弟子は多額の報酬を受け取り、屋敷を出た。

「先生、さっきの……」

「見抜いたか。木目が見えるのは切られた木。早晚、失脚するな」

2010/09/03 (Fri)21:52:40

#twnovel

「質問はこちらがする。あなたは答えればいい」

「それより、これ、ほどいてよ」

「環境保護に貢献している？」

「い、いえす」

「自転車に乗っているから？」

「イエス」

「自転車に乗っていると解放感を感じる？」

「イエス」

「どこの舗道を走ってもいい？」

「イエス」

「有罪」

「はい？」

2010/09/04 (Sat)18:46:32

#twnovel

西暦二〇一〇年九月一一

人類は最悪の敵に襲われた。

未来人だ。

未来世界の資源を枯渇させた彼らは、滅亡の危機に瀕していた。

地球は未来人に支配された。

人類は奴隷化されたが、抵抗を続け、ついに未来人政府を崩壊させた。

だが、そのとき、すでに地球の資源は枯渇していたのである。

2010/09/04 (Sat)22:45:53

#twnovel

突然の夕立で、雨宿り。

面白くない。

降り出す前に時間跳躍——

失敗。

もう、降ってる。

もうちょっと前へ——

また失敗。

さらにもうちょっと前へ——

成功。

まだ降ってない。

今のうちに傘を買って——

ん、雲がない。

降らないのか。

ちょっと世界改変しすぎたかな。

なんだ、この暑さは……

2010/09/04 (Sat)23:52:42

*イカの眼はものすごく性能がいいのだそうです。ということで、あしじゅぼーん伝説・その一——

#twnovel

神はみずからに似せて、われらを作りたもうた。

われらは、神のための目。

見て、情報を神に送る。

神は、それを受信している、はずだ。

そのかみには神託がくだることもあったというが、われらは沈黙しか知らぬ。

それゆえ、ひかり船に救いを求めるものが出るしまつた。

ニンゲンの船に。

2010/09/06 (Mon)22:39:09

*あしじゅぼーん伝説・その二——

#twnovel

神託がくだった。

言葉ではなく、運動中枢に直接に打ち込まれた指令だった。

惑星上の数カ所にわかれて、われらは集合した。

月光の下、海が銀色に光る。

われらはその聖なる御名を唱える。

あしじゅぽーん、あしじゅぽーん……
十本足の神が降臨する。
ニンゲンどもの去った惑星の海に……

2010/09/06 (Mon)22:59:28

#twnovel

ザッケローニって誰だよ？
おいおい、俺はなんのためにこんな島国に呼ばれたんだい？
あんた、言ったよな、俺を監督にするって。
まったく、とんだ詐欺師だ。
もういい。
あんたには頼まない。
くにも帰らない。
俺が、作ってやろうじゃないか。
あの、ザッケローニより強いチームを。

2010/09/07 (Tue)23:25:58

#twnovel

地方活性化が叫ばれて久しい。
だが、実を結ぶ企画は出ない。
コンサルタントは言った。
「もはや、B級グルメの時代ではないのです」
「おお、やはりA級を目指せと？」
「その発想が愚かなのです。AでもBでもない、Z級グルメです」
「Z？」
「そう、食べたら死ぬ最終グルメ」
「帰れ」

2010/09/07 (Tue)23:36:54

#twnovel

僕は可愛い小学生。
よく変質者につきまとわれるんだ。
キモいし、怖いから、ランドセルにつけた非常用ブザーを鳴らすと、いつものやつ
はいなくなるんだけど……
なんだ、こいつ。
ぜんぜん気にしてないみたいだ。
そうだ、別居中のパパのくれた腕時計を使ってみよう。
「来いッ、ロボ！」

2010/09/07 (Tue)23:51:20

#twnovel

どうして自分が選ばれたのか、わからない。

他の当選者も同様らしい。

豪華客船でゆく世界一周クルーズ体験モニター(無料)――

雨つづきであることを除けば、なんの不满もない。

「私、雨女だからなあ」

「え、私も」

「うちも」

「わちきも」

……

一方その頃、日本列島は乾ききっていた。

2010/09/08 (Wed)19:04:31

*青春18きっぷの夏の使用期限は9月10日――

#twnovel

ポケットに、一枚の紙片があった。

夏の間、ずっとポケットに入れていた――

魔法のカードだ。

魔法は一日一回発動する。

一枚で五回使える。

もう二回使った。

九月十日午後十一時五十九分――

もうすぐ魔法は消滅する。

それを承知で日付印を押してもらった。

零時すぎの最初の駅までの旅。

2010/09/10 (Fri)23:29:19

*故・谷啓氏に——
#kaibun #twnovel

「できすぎス！」
「違う？」
「……そうです。浦和です」
いつも鞆に谷啓。
大抵いて、いたいけに他人。
馬鹿も、つい、素で笑う。
「素で嘘？ 穿ちすぎ！」
「好きで……」

2010/09/11 (Sat)20:35:09

#twnovel

物語るなら、終末の直前から始めよ。
あたかも、長い旅の始点であるかのように。
行く手に、心おどる出来事が満ちているかのように——
しかもなお、一片の期待も抱かせないような抑えた声音を保て。
そして、まず、主人公に試練を与えよ。
そう、今、私がおまえに課しているようにな……

2010/09/12 (Sun)21:18:48

#twnovel

食わなきゃいけない——
大きくなれませんかよ、と言われて食べたこともある。
健康に気をつけてね、と言われて食べたこともある。
空腹を満たすためだったこともある。
昔は目的があった。
今は？
わからない。
脳は思考停止している。
誰かに嘸まれてから。
俺、今、誰を食ってるんだろう？

2010/09/12 (Sun)22:49:58

*毎月14日はついのべの日。今月のお題は、”月”——
#twnovel #twnvday

いびつな残月——
雀荘の便所の窓から見上げている。
もし月がなければ、沢山の名曲が埋もれていたわね——

彼女のざれごとが耳に甦る。
その彼女を、賭けた。
バカみたいについてたから、つい挑発にのった——
罵だ。
ツキがなければ、俺は、自身を埋めなきゃいけない。

2010/09/14 (Tue)21:45:01

#twnovel #twnvday

”日”に足が生えて、”月”になった。
”月”は歩き回り、自分によく似た”朋”友を得た。
二人は友情を深めたが、ある山の麓で、土砂”崩”れに巻き込まれた。
”月”は、友と両足を失った。
”日”に戻り、憂鬱な日々を送ったのち、出家した。
”時”だけが過ぎた。

2010/09/14 (Tue)22:33:14

#twnovel #twnvday

ムーンリバー——
月光が海面に見せる、幻の河。
どこから湧き、どこへ流れてゆくのか。
海の、その先に、何があるのか。
岬の突端——
崖っぷちに立って、そんなことを考えていた。
二時間ドラマのクライマックス。
真犯人は俺。
さあ、探偵、あの河の行方を教えてくれ。

2010/09/14 (Tue)23:32:47

#twnovel

「あ、婆ちゃん。俺、おれ……うん、仕事で穴あけちゃって……三百万、用意できるかな……じゃあ、バイク便が行くから、よろしく！」

「まかせて！」

可愛い孫の窮地を救えるのは私だけ。
昔とった杵塚——
久々のコン・ゲームだわ。
忙しくなるわね。
さて、引退した仲間を集めなきゃ……

2010/09/15 (Wed)18:40:02

#twnovel

高齢化が発端だった——
農村部から都市部への移住があいついだ。

引退した高齢者が、都市機能の充実を選んだのだ。

やがて、次の世代もそれに倣った。

次の世代も……

いつしか、都市は高い城壁に囲まれていた――

回転して宇宙へ旅立っていった、あの都市群の草創期はこのようであった。

2010/09/17 (Fri)21:57:15

#twnovel

幼い娘よ。

僕が意識を失うまでの、あと数分間――

どれだけのことが伝えられるか。

伝えたいことの半分、いや、百分の一にもならないだろう。

でも、ちゃんと聞いておくれ。

父さんの最後の言葉を……

「あなた、起きて。酔っぱらいの面倒はみませんよ。はいはい、よっちゃんはミルク？」

2010/09/18 (Sat)23:30:33

#twnovel

「おまえはカレー食ってりゃいいんだよ！」

「内部告発だあ？」

「余計なことを！」

「生意気な豚！」

四人の仲間にリンチされていた。

気持ちはわかるよ。

もうすぐ、僕らは正義のスーパー戦隊じゃいられなくなる。

弱気な僕がウィキリークに書いたから――

気晴らし目的だけの大量殺戮を。

2010/09/20 (Mon)18:27:00

#twnovel

「先輩、本当に検事やめるんですか？」

「ああ、ヤメ検ってやつさ」

「そんな、うちのエースなのに」

「おいおい、かいかぶるなよ」

「そんなことないですよ」

「これ、置き土産。やるよ」

「フロッピーディスク？」

「俺の能力で改竄できるのは磁気情報までさ。もう、俺の時代じゃないよ」

2010/09/21 (Tue)21:19:11

#twnovel

「お帰りなさい。ごはんにする？ それとも、ごはんになる？」

2010/09/28 (Tue)20:35:43

#twnovel

憧れのアメリカ西海岸――

俺を認めない島国を飛び出して、留学の夢を叶えた。

いや、本当の夢はこれから始まるアメリカンドリーム。

俺のジャパン・クールに全米が泣く日が来た！

まずは手始めにルームメイトのジョン、俺の自主制作アニメ、どうだい？

何、その顔？

あ、いずこへ？

2010/09/29 (Wed)21:27:47

#twnovel

九月の終わり、朝、東京都大田区田園調布――

ツクツクハウシの声。

やかましい、と思った瞬間、空気の涼しさに気づき、ひょっとして今年最後の蝉の声ではないか、と思い当たった。

感慨に耽っていると、声が止んだ――

長かった夏が終わった。

秋だなあ……

五秒後、別の蝉が鳴き始めた。

2010/09/29 (Wed)22:20:09

*ロケ地、東北本線一関駅ホーム――

#twnovel

晩夏で、黄昏どきだった。

東北本線の下りの乗り継ぎ列車を待っていた。

少し肌ざむかった。

市内でいちばん高いビルの屋上にビアガーデンの照明が見え、有線放送らしい歌が漏れてきた。

あいらああぶゆううう……

この世の終わりみたいな声だった。

その頃、尾崎豊はまだ死んでなかった。

2010/09/30 (Thu)18:10:21